

## 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

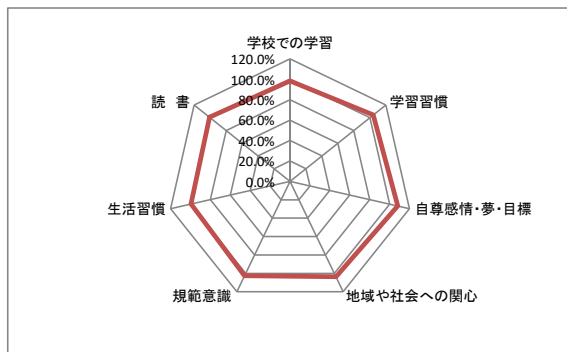
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国平均正答率を上回っていたが、「書くこと」、「読むこと」の領域については、全国平均正答率を下回っており、特に「書くこと」の領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題や、目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題はよくできている。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題や、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題は全国平均正答率をかなり下回っており、改善の努力が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」のすべての領域において全国平均正答率を下回っている。どの領域においても課題はあるのだが、「活用」に関する問題や記述式の問題に多くの課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	台形について理解する問題や、棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題はよくできている。	
	努力が必要な問題	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題や、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題は、正答率が低く、改善の努力が必要である。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○どの領域においても全国平均と同程度か、上回る結果となった。また、昨年度の数値と比較すると、どの領域においても伸びが見られる。</p> <p>○学校での学習においては、話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることが、全国平均に近づいてきており、普段の学習で継続的に話し合い活動に取り組んできた成果が徐々に表れてきていると考える。</p> <p>○家庭での学習習慣については、昨年度全国平均を下回っていた平日の学習時間が、今年度は全国平均を上回った。継続的な啓発と家庭の協力が成果に結びついたと考える。</p> <p>○自尊感情・夢・目標の領域においては、自分には、よいところがあると感じている割合、将来の夢や目標をもっている割合、人の役に立つ人間になりたいと思っている割合は、全国平均を大きく上回っており、「仲間、尊敬、感謝、貢献」のキーワードをもとに学校での様々な活動を通して、成就感や達成感を味わうことが自信につながっていると考える。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>○スクールプラン、児童の実態や授業改善に向けた課題をもとに学年プランを作成し、学力向上や授業力向上につながる授業づくりや共同体感覚を育むための取組を行う。</p> <p>○「戸畑中央スタディスタンダード～学び合いの基盤づくりについて～」をもとに落ち着いた学級づくりや授業づくりを行う。</p> <p>○朝の活動の時間(ドリルタイム、読書タイム、音読暗唱など)を全校一斉に実施し、その定着を図る。</p> <p>○毎週火曜日と金曜日の放課後に全校で補充・補習の時間に取り組み。また学力定着サポートシステムの基礎・基本定着問題や診断問題等の積極的な活用を図る。</p>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○家庭学習の時間やその取り組み方について、家庭学習チャレンジハンドブックなどを有効に活用して指導していくとともに、学級懇談会や個人懇談会、学校だよりや学年だより等を通して家庭学習の大切さを保護者へ啓発していく。</p> <p>○PTAと連携し、家庭読書の日、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施や、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間について積極的に啓発を行う。</p> <p>○中学校区で家庭学習や生活習慣等についての情報交換を行い、中学校区における統一の生活習慣や学習習慣に関するきまりを作成する。</p>
---